

ほたる草

ふくてっく
発行責任者
代表：杉浦史郎
765-4041



総会の記

平成20年度 常総会は、5月9日牧里毎治先生の記念講演の後、2人の会員が出席して開催されました。

年度予算案が審議されましたが、1号議案同様に精査不十分なる旨、異議がありました。事務局にて再度精査の上、補正報告する事で了承されました。

(記 中北 清)

第4号議案では、5周年記念事業を中心とする本年度事業計画が採択されました。

・若者との付き合いで刺激を得られる。
・仕事をじて社会貢献をしているつもりであるが、なにか抜けているという感じであった。この活動に参加して、その抜けていたものが埋まったと感じている。仕事とボランティアの区分はほんやりしていて、仕事の中にもボランティアみたい な仕事もある。自分の満足度と社会的満足度が共に高いことをしていきたい。

総会 記念講演

NPO法とボランティア



平成10年5月9日

(土)
牧里 毎治 氏

大阪府立大学
社会福祉学部教授

NPO法について今回講義をしていただいた。先生のご専門は地域福祉。住宅と福祉を結び付けている、日本名でライフサポートアドバイザーのような領域に、特に関心を持たれているそうである。

配付された資料に基づいて、特定非営利活動促進(NPO)法とそれを取り巻く環境や諸外国のNPOなどについて、解説していただいた。NPO法について1NPO法による法人の税制優遇措置はなく、先送りとなっている。たとえば法人税が免除とか、企業からの寄付行為が損金扱いになるとかにはなっていない。アメリカやイギリスでは優遇措置が認められている。2活動分野が12分野に限られているが、これにあ

てはまらない市民オンブズマンなどになるのか、今後の課題となる。3諸外国では届け出制で、書類の不備がなければ資格は得られる。ところが日本の場合認証制という特異な登録システムで、書類の審査と12分野に入るかどうかなど行政が判断し、2以上の都道府県にまたがる事務所のある団体は経済企画庁長官、1つの都道府県内にある団体はその都道府県のある知事が判断する。

現在では公益法人といえ、社団法人か財団法人しかなく、草の根的活動をしている市民団体にとって社会的認知を得るという意味においては一歩前進ではないかと考えている。

社会的に認知を得るということは、独立した団体として個人資産から団体資産となり、活動の継続性が計られる。行政からの調査委託など、委託先として独立した活動が出来る。また、大阪ガスや松下電器などの財団からの助成金など出す場合の受け皿に成りえる等のメリットがある。

今後の展望としては、中小零細な民間団体に支援しやすいとなる。例えば障害者共同作業所、最近では高齢者のグループホームとかミニデイ等。民間として活動していこうと

している場合、単なる任意団体、即ち行政から認可されていない団体として活動するのではなく、社会的に認知を得た団体として活動出来る。任意団体の場合には今まで助成金はある公益法人を経由して受け取っていたがNPO法人の場合、補助金など直接行政

と取引できるメリットがでてくる。また、社会的認知を受けた場合に市民が安心して参加活動がしやすくなり市民活動のエネルギーの受け皿になりやすくなる。NPOとしては、事業として色々考えられるが、ボランティア、コンサルタント業など事業運営していく団体であれば、それなりにメリットがあるが、それ以外ではメリットはあまりないと言えるだろう。

ボランティアは救世主ではなく、そうとは思わずにやったら、結がボランティアといわれた。第2号議案では、平成2年度理事は前年度の構成を維持しつつ、新たに八木八朗・牧野展元の両氏を初期診断担当理事として加え、谷阪会員を理事から除外する旨、採択しました。

冒頭に杉浦代表を議長に選出し、まず第1号議案として、平成9年度活動状況報告と同決算報告が採択にかけられました。が前年度繰越金の計上方法など、若干の修正動議がだされ、事務局にて再度精査する事になりました。

・平野区の依頼者の床のフラット化、をボランティアでしたけれど、自分の父親に必要な手すりの取り付けは工務店に頼んでしまった。(笑)

(記 鴻上 敬二)

ふくてつく 発足5周年記念シンポジウム

ボランティアの原点を

平成20年6月6日

(土)

《パネリスト》

桑原英文氏

兵庫県社会福祉協

議会

ボランティアセン

ター

窪田新一氏

サロン淀川代表

竹村安子氏

大阪市社会福祉協

議会

ボランティアセン

ター

所長

杉浦史郎氏

ふくてつく代表

新開加代子氏

知的障害者作業所

カウンセラー

ふくてつく会員

《コーディネーター》

宇賀神紀子氏

ほたるの苑主宰

ふくてつく会員

《問題提起》

新開

・専門家ボランティアの住宅改造のグループに参加して何が出来るかという不安

・マスコミなどによく取り上げられているボランティアに何処から取り組んだらよいのか。

・障害のある人のために何をすればよいのか、その人との付き合い方。

・ボランティアする人とされる人とのバリアとはなにか?どうすればバリアがとりはずせるか。

・神戸でも、土日に訪問ボランティアが集中するので、住宅の人たちが忙しくなるなど、喜劇的な

・今、ボランティアに対する一的水準は「入るか、やめよか、考え中」というNOVA状態。ボランティアをしようという人もいない、という状態と比べると格段に進歩した。

・自己開発、自己実現、喜びがボランティア。バリアはハードだけでなく、ハートのバリアもなくすことも必要。

・何かをしたいというボランティアと、相手が求めている内容にギャップがあることも事実。何か具体的な作業をしてもらうのではなく、話をしてくれるだけでよいのに、

・自分を楽しむことによって相手も楽しんでもらえる。そんなことをしているとしてボランティアになる。

・ボランティアしようとして参加することでは何も得られない。

・息子が送ってくれた手紙や真でボランティア活動をしている人たちが、本当に楽しそうに活動しているのを見て、自分もやってみようと思った。

・物ができるという自己満足、造る事がおもしろい。

・若者との付き合いで刺激を得られる。

・仕事をじて社会貢献をしているつもりであるが、なにか抜けているという感じであった。この活動に参加して、その抜けていたものが埋まったと感じている。仕事とボランティアの区分はほんやりしていて、仕事の中にもボランティアみたいな仕事もある。自分の満足度と社会的満足度が共に高いことをしていきたい。

【新開氏の問題提起に対して各パネラーのボランティア感、活動の仕方などの発言があり、会場参加者から活動体験を踏まえての意見があつた。】

桑原

・ボランティア活動は感性

・住民のつながりの中で出来たボランティアグループいい方向に継続する

・三田町の重油災害のボランティアに行くことによつて住民の日常生活の時間をボランティアのために大に割かざるを得なくなった

・神戸でも、土日に訪問ボランティアが集中するので、住宅の人たちが忙しくなるなど、喜劇的な

・今、ボランティアに対する一的水準は「入るか、やめよか、考え中」というNOVA状態。ボランティアをしようという人もいない、という状態と比べると格段に進歩した。

・自己開発、自己実現、喜びがボランティア。バリアはハードだけでなく、ハートのバリアもなくすことも必要。

・何かをしたいというボランティアと、相手が求めている内容にギャップがあることも事実。何か具体的な作業をしてもらうのではなく、話をしてくれるだけでよいのに、

・自分を楽しむことによって相手も楽しんでもらえる。そんなことをしているとしてボランティアになる。

・ボランティアしようとして参加することでは何も得られない。

・息子が送ってくれた手紙や真でボランティア活動をしている人たちが、本当に楽しそうに活動しているのを見て、自分もやってみようと思った。

・物ができるという自己満足、造る事がおもしろい。

・若者との付き合いで刺激を得られる。

・仕事をじて社会貢献をしているつもりであるが、なにか抜けているという感じであった。この活動に参加して、その抜けていたものが埋まったと感じている。仕事とボランティアの区分はほんやりしていて、仕事の中にもボランティアみたいな仕事もある。自分の満足度と社会的満足度が共に高いことをしていきたい。

・新しい似たようなボランティアグループが出来た時も一緒にやろうと手を伸ばすグループになってほしい

・老人を援助する対象としてみるのではなく、知恵を借りる人との見方も必要。

・求められるニーズをつかんて自立を援助する活動をしてほしい。

・求められるニーズをつかんて自立を援助する活動をしてほしい。

・求められるニーズをつかんて自立を援助する活動をしてほしい。

・求められるニーズをつかんて自立を援助する活動をしてほしい。



杉浦

・ボランティアの有償、無償についてどう考えるか。

野山

・ボランティアの有償、無償についてどう考えるか。

窪田

・障害者そのものの理解は難しいが、障害そのものの理解をすればよいのでは。

宇賀神

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

ことも検討したい。

・インターネットホームページなどでの情報交換をしていきたい。

・会員同志の親睦を深める会、演劇部での「松の廊下(老化)」の演劇や音楽同好会、歩こう会など、会内の親睦活動にも取り組むたい

窪田

・のれんを守ることが最大の活動というようなグループにならないでほしい。

佐藤

・過去の施工先の点検活動をしてはどうか。これなら専門家でなくても参加しやすいのでは。

三浦

・女性の活動の場をもっと広げることが試みては。

・ホームヘルパーさんの団体への啓発活動として、出前の講義の実施などをして、現場での住改善の必要性に気づいてもらう。

【コーディネーターから】

宇賀神

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

・ボランティアは手段。自分のステージをつくる

(記 木村 多加緒)



子供と共に親も夢中に

子供木工教室開催

大阪市子どもカーニバル
で子供木工教室開催
4月8日大阪城公園
で「大阪市子どもカーニバル」がひらかれた。ふくてつくは五周年記念事業の一環として子供木工教室に参加した。子ども参加者総数約13,000人(大阪市市民局青少年対策課子供会事務局発表)であった。
今回は参加者の方にとことインタビュをした。
曾根利弘氏「初めて参加した。絵の所にとけど2回3回と来た人がいた。ただ思いつく絵を描くだけだがやってみると楽しいと解かったからではないか。」
佐藤宣三郎氏「子供たちがもっている創造性や発想がおもしろかったネ。板に星を描

ボランティアの原点を实践
住宅改造は行わず
西宮市Nさん38歳 女性
(依頼者は娘さん)
A 6畳の和室とガレージを合わせて、寝室・浴室・便所の部屋を増改築してほしい。
B 本人と娘夫婦と孫娘の4人家族。本人は痴呆症状が少しあるが、食事・入浴・排泄・散歩等は自立しており、とても元気である。現在週1回のデイサービスにっている。
C 本人の部屋は玄関に近い和室である。希望りにバス・トイレ付きの部屋を増築すると、家族の目が届きにくく介護もしにくくなってしまう。
会話の一部を再現すると、
初期診断者「高齢者の中には、急に環境が変わると痴呆になりやすいって聞きますけど。」
娘さん「うちの母は環境の母親に対する愛情の裏

協賛会社の紹介
タキロン株式会社
床材事業部
タキロンは、快適で安全な空間づくりのために、塩素系可塑性を含まないポリオレフィン系の床材や、表に凹処理を施した防滑性の床材、さらに転倒時の衝撃をやわらげる弾力性のある床材などを制作されています。
このように、人と環境を基本に考えながら、床材の研究・開発に取り組んでおられる企業です。



振り返られて心身共にくたくたになりながらも一生懸命母親の世話をしているのに、誰も何もわかってくれない。本当はそう言いたかったのじゃないかな、と思いました。増築するお金を自分のストレス解消に使ってみては、と言って帰ってきました。
初期診断者として役にたたなかったかもしれないが、話を聞いてあげたのも大切なボランティアなんだと思いました。増築しても、お母さんが傷ついただけということに気づいてくれたとしたら、それも立派な成だと思っています。
＊初期診断の翌日、事務局に娘さんからお礼の電話がありました。
(牧野・鎌田)

素材にもひと工夫
スペースも活用
平野区Sさん38歳 女性
A 洋式便器を低く(またたは床を高く)してほしい。
B 市営住宅1階の高齢者対応住宅に住んでいる。ご主人は施設に入所しており、現在1人暮らし。体幹機能障害(特に膝が弱い)と視力障害(斜視と強度の近視)で、押し車で室内移動をしている。現在、ホームヘルパーが週2回訪問している。
C 問題になったのは、居室とタイル床に段差があり(水はけに配慮したものの)、押し車の車輪がひっかかってしまう点と、便座の置が一のものより高く(車椅子介助を想定の為)座りにくい点であった。Sさんは小柄なため便座に座ると足が浮いてしまう。
解決案として、便器を常の高さのものに置き換えるか、床を嵩上げする

事例報告
D 日常生活と家庭状況
改善後の状況と考察
D ニード
日常生活と家庭状況
改善後の状況と考察

編集後記
五歳の誕生日を迎えたふくてつくは、パネルディスプレイで次期(新開加代子)のスタートを切りました。
その喜びをみんなで分か合い、次の成長を楽しみに広報を頑張っていると思います。どうぞよろしく。

介護支援専門員
(ケアマネージャー)
平成十二年四月から開始される介護保険制度において要介護者等からの相談に応じ、及び要介護者等がその心身の状況に応じ適切な介護サービスを利用できるように市町村、事業者等との連絡調整を行う者であって、要介護者等が自立した日常生活を営むのに必要な援助に関する専門的知識、技術を有するものとして省令で定める者と定義されている。(介護保険法第72条第2項12)
介護支援専門員は指定介護支援サービス事業者および介護保険施設には必ず置かれ、介護サービス計画を作成したり、事業者、施設等との連絡調整を行うなど、介護支援サービス

5・6月事務局会議
7月8・9日に開催される「ふれあいメッセ」(大阪ガス労組5周年事業)への協力要請を受けて、子供木工教室を実施します。
8月の当会5周年記念祭の会場は北区在宅サービスセンターと決定しました。テーマを「8月8日はパパと作ろう」として、木工教室の他、ハーブを使った料理教室・お菓子教室を開きます。詳細は案内記事をご覧ください。
10月の手すり展は、企画を練ってきましたが、8・9日にATCにおいて「オール・ザッツ・テスリ」と銘うって開催する事となりました。詳しい内容は途お知らせします。
NPO研究会は6月8日に第1回委員会が開かれ、いよいよ当会も真剣に検討を始めています。
7月例会の講師は、都合が悪くなりましたので10月に変更し、中北会員の「北欧視察報告」とします。



ことば・コトバ
介護支援専門員は指定介護支援サービス事業者および介護保険施設には必ず置かれ、介護サービス計画を作成したり、事業者、施設等との連絡調整を行うなど、介護支援サービス

事例報告
D 日常生活と家庭状況
改善後の状況と考察
D ニード
日常生活と家庭状況
改善後の状況と考察

事例報告

ボランティアの原点を实践
住宅改造は行わず

素材にもひと工夫
スペースも活用

介護支援専門員
(ケアマネージャー)

ことば・コトバ

編集後記

5・6月事務局会議